お客様　各位

2023年11月吉日
富士フイルム VET システムズ株式会社
営業推進本部　受託検査推進グループ

受託検査項目　「エリスロポエチン」参考基準範囲変更のご案内

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、格別のお引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
　この度、受託検査項目「エリスロポエチン」に関して再検証を実施し、参考基準範囲を下記の通り変更させていただきます事をご案内いたします。
今後とも、弊社受託検査サービスをご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

【対象製品】
　受託検査項目　エリスロポエチン
【詳細】
　参考基準範囲変更にあたり、岡山理科大学 獣医学部 獣医学科 教授 星 史雄 先生にご監修いただきました。

項目名	対象動物	材料/量（mL）	保存方法	測定方法	報告日数	参考基準範囲（mIU/mL）	
						変更前	**変更後**
エリスロポエチン	犬・猫	血清/0.5	冷蔵	CLEIA 法	～5	犬：1.3～13.4 猫：1.9～22.9	**犬：～2.8** **猫：～4.8**

　参考情報：エリスロポエチンの測定意義

　1．赤血球増多の症状があり、多血症を疑う場合

エリスロポエチン測定値	考えられる疾患・状態
参考基準範囲上限以上	腎臓でのエリスロポエチン産生が亢進しており、二次性多血症の可能性が高い。
参考基準範囲内	腎臓でのエリスロポエチン産生は亢進しておらず、真性多血症の可能性あり。

　2．貧血の症状があり、腎性貧血を疑う場合

エリスロポエチン測定値	考えられる疾患・状態
参考基準範囲上限以上	腎臓でのエリスロポエチン産生が亢進しており、腎性貧血である可能性は極めて低い。
参考基準範囲内	貧血に対して腎臓でエリスロポエチンが産生されており、正常な反応である。 ただし、参考基準範囲内の値でも低値の場合は、貧血の程度によってはエリスロポエチン産生が不十分である可能性があり、腎性貧血である可能性もある。※
検出限界未満	貧血に対してのエリスロポエチン産生が少なく、腎性貧血の可能性が高い。※

※ ただし栄養性の要因が重複している場合も考えられるため、その他の要因含め精査の必要があります。

【変更日】
　2023年12月1日（金）受付分より

尚、本件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】
　営業推進部　受託検査推進グループ
　連絡先　0422-26-7129（受付時間：平日9:30-18:00）

以上

LE23-14